

## 【現状】

- がん治療の変化により、外見上の変化が多様化。
- 近年の治療環境においては、治療中も患者と社会の接点が増えたことにより、外見変化に伴う社会生活を送る上で大きな支障が生じていることから、患者の悩みが深まっている。

■外見の変化に関する相談ができたがん患者の割合は、小児で約5割、成人では3割に満たない。

■アピアランスケアについて、特定の商品を紹介することは、公平性・公正性に欠くことから、病院内での周知は難しい一面がある。

## 【課題】

- 外見変化に際して、患者が求める情報ニーズへの対応
- 外見変化に伴う社会生活を送る上での問題への対応

## 【考えられる対応策】

- ①他自治体を実施するような一律の助成制度を設立。
- ②アピアランスケアに関する情報を集約し、がん患者に必要な情報を集約する仕組みを構築。
- ③患者の漠然とした不安や悩みなど医療以外の広範かつ個別性の高い相談への受入れ体制。

## ○論点⑤

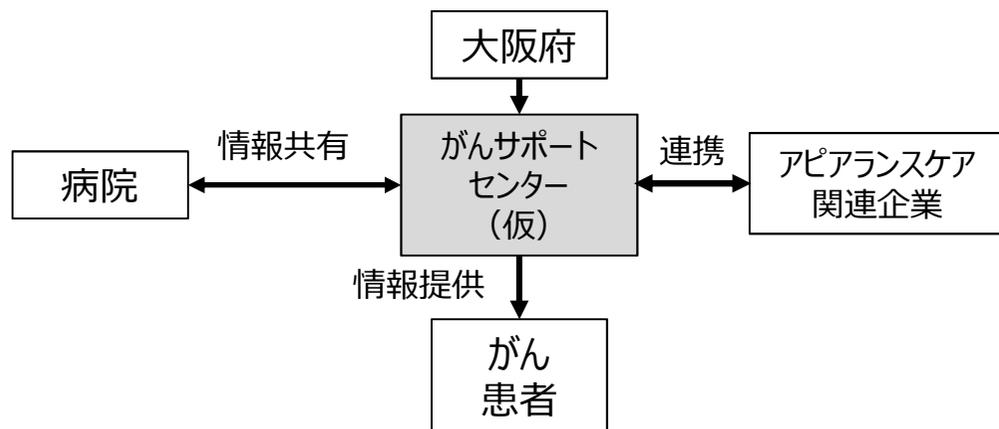
- 助成制度を設立するには、対象経費、対象者、所得などの様々な要件を設定する必要があり、必要とする人が必要な支援を受けることは難しいのではないか。
- 相談先が分からないという声も多く聞く中で、情報の集約を行い、アクセスしやすい仕組みを構築してはどうか。
- 公平性・公正性の観点から、公的機関が特定の商品を紹介することが難しいため、民間主導の運営が望ましいが、可能か。
- 他の支援の方法はないか。

## 対応策（案）

## アピアランスケアに関する情報を集約し、必要な情報にアクセスしやすい仕組みを構築

### 【アピアランスケア支援】

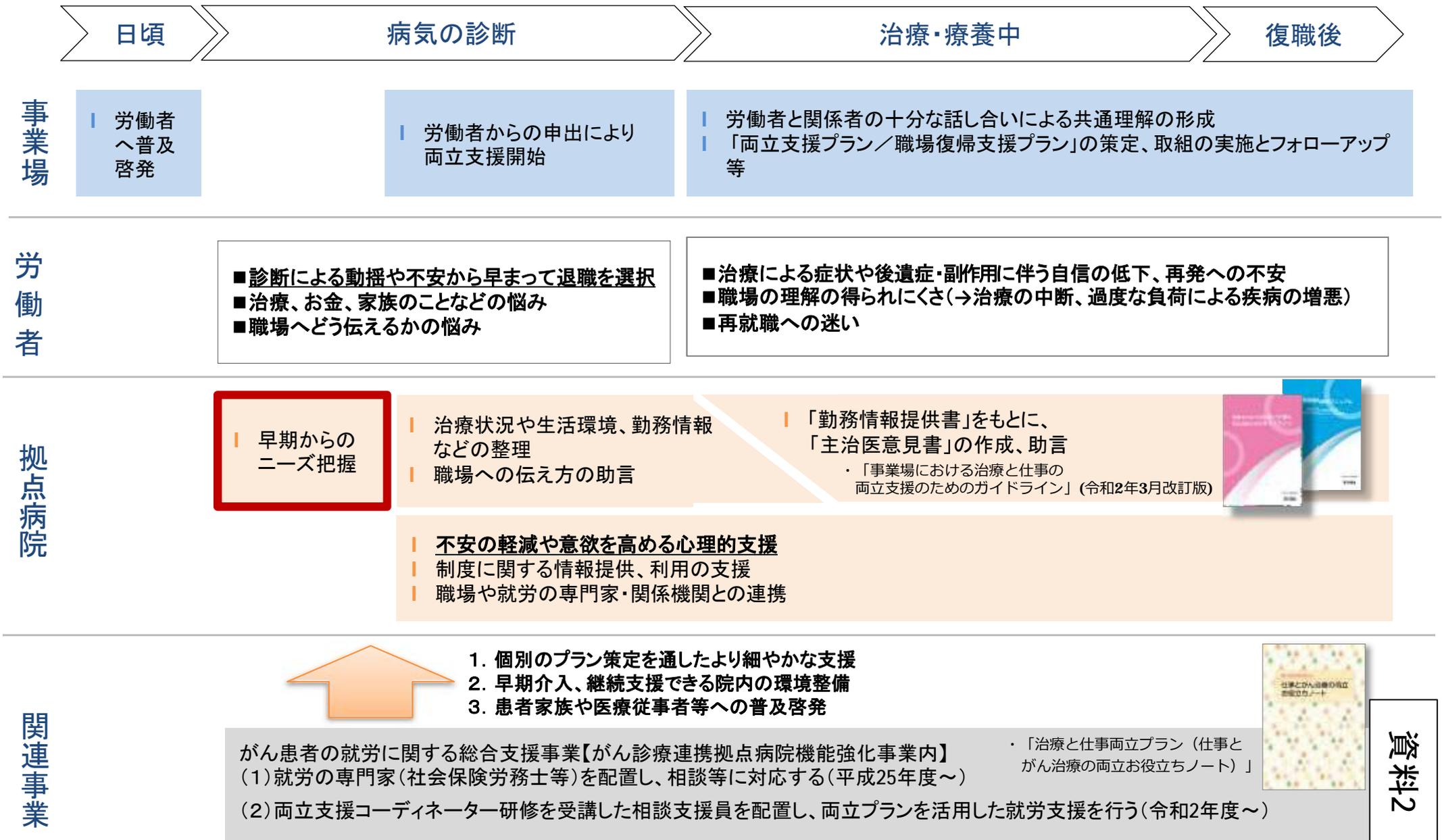
アピアランスケアについての支援を行うことで、治療後のがん患者が社会復帰や就労・就学を迎えるうえで、助けになると考えられる。



## ○論点⑥

- がん患者が社会復帰・就労を行うにあたり、どのようなアピアランスケアが必要と考えられるか。
- アピアランスケア関連企業について、どのような企業や団体と連携したら良いか。
- 企業からの幅広い支援を受けるためには、どのような連携を取っていったら良いか。

# 拠点病院等におけるがん患者の仕事と治療の両立支援



# 【患者支援の充実】診断直後の患者ニーズへの対応

## 【現状】

- がん治療開始前までに、56.8%が動揺や不安から早まって退職を選択
- 治療開始前に就労継続について説明を受けたがん患者の割合が39.5%

## 【課題】

- がんの告知に際して、患者がうけるショックへの配慮
- 治療開始前の仕事や社会生活を送る上での問題への対応

## 【考えられる必要な対応策】

- ① 患者の漠然とした不安や悩みなど医療以外の広範かつ個別性の高い相談への受入れ体制。
- ② 治療後の生活支援を目的とした、専門的な相談。

### ○論点①

- がん診断直後の患者はどこに就労に関する相談をしているのか。
- 相談支援センターでは、治療開始前の就労継続についてどのような支援を行っているのか。
- 就労以外で相談支援センターでは対応できない相談とは、どのようなものか。

## 対応策（案）

がんサポートセンター（仮）を創設し、医療以外の相談について広範な相談を受けられる体制を構築する。

（※対応策についてはあくまで一例です）

### ○論点②

- 相談支援センターとがんサポートセンターの両建てが良いのか。
- 相談支援センターの機能を拡充する方法が良いのか。
- あるいは、その他の方法はあるのか。

がん患者

拠点病院

相談支援センター

がんサポートセンター（仮）

### （相談支援メニュー）

- がんの病態や標準的治療法等、がん治療に関する一般的な情報の提供
- がん患者の療養生活に関する相談
- 医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援

### ○論点④

- 相談支援センターとがんサポートセンターの連携はどのようなかたちで行うのが良いか。
- 相談支援メニューとして、どのようなものが求められているのか。

### ○論点③

- がんサポートセンターはどこに置くのが良いのか。
- 各拠点病院毎に置くべきか。

### （相談支援メニュー）

- 就労に関する相談（ピアサポート）  
⇒ 診断直後のがん患者の漠然とした不安を時間をかけて共有
- 治療後の経済的見通しを相談
- 法的な専門家による相談支援
- アピアランスケア